



かがわ里海大学 2023

スキルアップ

里海ガイド養成講座（入門） 開催しました



- 日 時：令和5年（2023年）6月10日（土）9:30～17:00
6月11日（日）9:00～16:30
- 会 場：坂出市万葉会館（坂出市沙弥島）及び沙弥島周辺
- 講 師：森田 桂治 氏（NPO 法人アーキペラゴ理事）、小前 昭二 氏（Free Cloud 代表）
谷 益美 氏（株式会社 ONDO 代表取締役）
- 受講者数：20人

実施内容

1日目 6月10日（土）

ガイドに必要な基礎知識をフィールドにおける体験と対話を通して学ぶ「里海ガイド養成講座（入門）」を開催しました。海だけでなく森で活動している方、会社員、大学生、プロガイドの方など様々な受講生となりました。

はじめに、地域資源を活用したガイド活動やそれに伴う地域活性化、環境保全に必要な里海ガイドの役割などについて、森田氏から説明がありました。

(1) プロガイドによるツアー体験 磯の生き物観察

受講生は、小前氏のガイドでナカンダ浜の磯で海の生き物を観察するツアーを体験しました。小前氏から、フィールドや活動時における注意点と生き物の探し方について説明があった後、磯で色々な生き物を探したり、生き物を採取したりして楽しみました。

巻貝のタマキビは、海水の中にいれると水から出て高い位置に移動する特徴があります。これを活かして、どのタマキビが水面より高い位置に速く移動するかを競うタマキビレースを行って、その動きや様子を見て受講生は大盛り上がりでした。

ツアー体験の後には、ガイドがツアーの中で何をやってたかを各グループでふりかえりながら、ガイドが実施していた行動や内容をふりかえりました。この中で、なぜ、ガイドがその行動や説明をしていたのかについて意図開きや解説を行いながらガイドの役割について学びました。

受講生からは、「ガイドがさりげなくお客さんに説明をしているが、目的や色々な事を考えて説明や行動しているのが分かった」などの意見があり、ツアー体験をしたことで、ガイドが行っている役割や説明が腑に落ちていた様子でした。



磯で生き物観察



タマキビレース

(2) 好きなガイド?嫌いなガイド?とは

参加者の立場になりながら、「好きなガイド」「嫌いなガイド」とはどのようなガイドなのかをグループワークで意見を出し合いながら考えました。

好きなガイドとしては、「声大きい(いい)」「おもしろい」「参加者にあった話をしてくれる」「安全管理ができる」などの意見があり、反対に嫌いなガイドとしては「声が聞こえない」「自己満足」「周りが見えていない」「くさい」などの意見がありました。この中で出た意見を参考にしながら、どのようなガイドが好かれて望まれているのかを全体で共通しながら、なりたいガイド像、なってはいけないガイド像を思い浮かべました。

(3) ガイドとしてのコミュニケーションスキル

谷 益美氏からは、ガイドを行う時におけるコミュニケーションで不安や心配なこと、大切にしていることについて受講生や講師ガイドの意見を聞きながらその理由を紐解きながら説明がありました。

ガイドを行う時に「参加者がどのような人か分からないと不安」「分かりやすく伝えられているか不安」などであるからこそ、大切にしていることでは対象者(参加者)を理解することや知識や伝え方を整理しておくことの大切さなどが意見として出ていました。

また、コミュニケーションとして重要なのは、「情報や感情の共有」であることや、ガイドが考えている思考が参加者に伝わっているかです。ガイドが一方向的に話したり伝えたりするだけでなく、その内容が参加者に伝わりやすい内容になっているか、伝わっているかの確認が必要と述べられていました。



好きなガイド or 嫌いなガイドを考える



コミュニケーションスキルアップ

2日目 6月11日(日)

(1) アクティビティ体験とリスクマネジメント講義

里海プロガイド養成講座(応用)修了生の谷 光承氏がガイド役で、受講生は自然の中に隠している人工物の昆虫や動物を探すアクティビティを体験しました。受講生は、体験を通して、何気なく「見る」と「観る」観察することが違うことや視点を変えることで見えるものが変わることなどを実感していました。

アクティビティ体験の後には、ガイドがどのようにリスクマネジメントを行っていたかをふりかえりながら、リスクマネジメントの流れや方法を取りまとめました。

森田氏から、ここで出た意見やリスクマネジメントの考え方について掘り下げて解説があり、基本となる「予防」「対策」「処理」の考え方について話がありました。また、いざという時のために日頃から救命救急法の応急手当などの技術を身につけておくことやファーストエイドキットを携帯しておくことが大事であることが述べられていました。



アクティビティを体験



アクティビティ体験のふりかえり

(2) アクティビティづくりトレーニング

受講生は、里海を感じられるアクティビティづくりにチャレンジしました。各グループで、沙弥島を歩きながらフィールド観察をして、その場所に適した内容や自分たちの伝えたいこと、得意な技術を盛り込みながら内容を模造紙に取りまとめました。

作成したアクティビティは全体で共有をして、意見交換をしました。角のある生き物をさがす「鬼を探せレース」、ビーチコーミングと写真撮影をあわせた「沙弥島の魅力発見ツアー」、ビーチにあるものを利用して砂浜をキャンバスにした「浜の美術館」など、講義で学んだこととフィールド特性を活かしたアクティビティが作成されていました。

最後に2日間の講座のふりかえりを行い、受講生からは「新しい視点で物事を見ることができるようになった。自分の世界が広がった」「ガイドする人の難しさや面白さが自分なりに理解できました」などの感想がありました。

2日間の講座が無事に終わり、20名の里海ガイド養成（入門）修了生が誕生しました。



フィールド調査



アクティビティづくり



作成したアクティビティの発表



集合写真